

令和6年度（2024）
高山植物等保護パトロール活動
～パトロール員からの報告～



国有林野保護管理協議会
富山森林管理署

1. 高山植物等保護パトロールについて

(1) 組織の概要

北アルプスの国有林において、希少な高山植物等の保護や山岳環境の美化を目的としたパトロールを継続して行っています。このパトロールは、昭和47年から毎年夏山繁忙期に行っており、富山森林管理署、地元自治体、山小屋関係者、運輸事業者等で構成する「国有林野保護管理協議会」がパトロール員を公募し、「立山」、「薬師岳・雲ノ平」、「黒部」、「白馬・朝日・北又」の4地区において実施しています。

本年度も、立山地区、薬師岳・雲ノ平地区、黒部地区及び白馬・朝日・北又地区で活動しました。

(2) 活動期間

立山地区（7名）	令和6年7月18日 ～ 令和6年8月16日（30日間）
薬師岳・雲ノ平地区（2名）	令和6年7月18日 ～ 令和6年8月9日（23日間）
黒部地区（2名）	
白馬・朝日・北又地区（2名）	

(3) 主な活動内容

- ・違反行為者等への注意指導（登山道外への踏み込み、指定地外キャンプ、植物採取等）
- ・利用者への高山植物等保護を呼びかける啓発活動（ストックキャップの着用等）
- ・高山植物等保護のための立入禁止柵（グリーンロープ）の整備及び置き石による脇道封鎖
- ・看板、道標等の補修及び設置
- ・ゴミの回収を中心とした山岳美化活動
- ・植生保護、登山者安全確保のための雪渓切り
- ・ライチョウの生息状況の記録
- ・登山道、看板等の状況確認

2. 活動風景



活動に関する研修



ライチョウの生息状況の記録



美化活動



標識の擦れた文字の補修



踏込禁止箇所の標示



利用者への普及啓発活動



グリーンロープの設置



雪溪切り

3. 巡視結果報告

【立山地区】

結果報告の要約

- ・注意件数内容で大きく占めていたのは、その他で44%、ストックキャップ未装着が39%、グリーンロープ内立入が15%
- ・その他のうち、多くは施設内等での不必要なクマ鈴の騒音、一部ではドローンの無許可飛行や昆虫採集等があった
- ・ライチョウの目撃数は昨年より少なくなり、特にヒナの目撃数が少なくなった
- ・外国人観光客の登山マナーの理解不足が目立ち、今後もマナー周知が必要

活動期間：令和6年7月18日 ～ 令和6年8月16日

区域

室堂ターミナル周辺 ～ 浄土山 ～ 一ノ越 ～ 雷鳥沢



グリーンロープの設置



美化活動

口頭注意件数

行為別	高山植物 採取	ロープ内 立入り	指定地外 キャンプ	ストックキャ ップ未装着	排泄の ゴミ	その他	計
件数	2	41	0	107	1	121	272
人数	2	65	0	150	1	186	404

※その他：クマ鈴、ドローンの無許可飛行、昆虫採集等

※新型コロナウイルス感染・感染疑いによる体調不良のため、8月1日からパトロール員4名体制へ

令和5年度 件数	3	208	0	109	4	80	404
-------------	---	-----	---	-----	---	----	-----

ライチョウ目撃数（羽）

	オス	メス	ヒナ	計
令和6年度	28	67	66	161
令和5年度	18	77	198	293

パトロール員からのコメント

● 巡視上感じたこと

- 2022年に比べて、ライチョウの数（特にヒナ）が減ったのではないかと感じた。当時のパトロールでは、30日間のうちライチョウを見ない日は2日間のみであったが、今年度は21日間見かけなかった。
- 外国人観光客の増加に伴い、グリーンロープを平気で越えて立ち入る、無許可でドローンを飛ばす等の行為が見られた。訪れる交通機関や到着地のターミナルでのレクチャーの必要性を感じた。
- 当初の想定よりゴミは少ない印象であった。室堂に来る方の意識が高いのではないかな。もちろん、そうでない方もいる。グリーンパトロールだけでなく、山小屋やキャンプ場の方が日頃拾っているものもあるだろう。
- スtockキャップの未装着が多かった。
- 悪質な注意案件はほとんどなく、多くはStockキャップ未装着やちょっとした不注意（撮影に夢中になって一歩踏み込んでしまうなど）からの軽微な注意案件で、ほとんどの人はマナーが良く自然を心から楽しんでおられる様子が印象的でした。
- パトロールをするうえで、その土地の文化・背景などの環境や高山植物の知識は事前にある程度つけておく必要があると実感しました。日々活動をしながら学ぶことはできましたが、登山者や観光客の方々から受ける質問に対して、時折、知識不足、経験不足を痛感しました。

● 改善を要すると思ったこと

- 神の道の木段整備。木段がない場所は雨等で登山道がえぐれ、広がって裸地化の進行も見られる。
- 室堂～天狗平間の劣化した木道の修繕。
- クマ鈴を控えてもらう件は、今後も働きかける必要があると思った。使用場所、利用方法などについてポスターなど広告での周知、交通機関や施設を巻き込んでマナーを呼びかける手段が増えれば、効率的に自然保護が進むと感じました。
- 現状では玉殿岩屋に続く道の通行可否がわかりにくい。入口はロープで閉めてあるが、先に続く道の両端にはロープが張ってあるため、判断に困る登山者が多くいた。山荘に質問する方も多くいるようで負担となっている。通行ルートについて、はっきりとした普及が必要である。入口のロープに案内を表示すると親切ではないか。例えば、「この先、未整備につき通行注意」。また、入口のロープをカラビナやフックで簡単につけ外しできるとなお親切だと思う。ロープを設置するのであれば、富山森林管理署としての思いを少なくとも室堂山荘のスタッフさんと共通意識を持てるよう、最初の挨拶の時に伝えるのが良いと思った。
- 海外からの観光客の方々にはそもそも「ロープ内立入禁止」という概念がないケースが多く、周知の

必要性を強く感じました。

例：英語、中国語、韓国語標記の立看板、知床のように事前レクチャーを受けてからの入場など、やっつけてしまっているものを見つけて注意するよりもはるかに効率的だと思います。

- 雪溪切り等、つるはし等作業を要する場合、安全な距離の確認、安全帽等の対策は必要。

● パトロールを終えての感想

- パトロールを始めるにあたり、2022年の経験からなるべく登山者や観光客の方々に声がけするように努めた。特にストックのゴムキャップを着けていない人には「こんにちは」の挨拶から、「ストックのゴムは取れやすいですね」と声をかけるとみなさん快く応じてくれる。それに加えて、「もしよろしければ拾い物ですが使ってください」と用意していたゴムキャップをお渡しすれば感謝さえしてもらえる。これは「仕掛学」から学んだ、人に「つい、やりたくなる」きっかけを与え、行動を変えるように仕向ける手法である。ただ、今回の反省点は、クマ鈴に対する声がけはなかなかうまくいかなかったこと。自分は実際に山でクマに出遭った経験もあるので、クマ鈴に対して絶対的信頼は無いし、トレイルランニングのレースで必携品になることもあり、クマ鈴エチケットは熟知している。ところが室堂では、ホテルのすすめもあるようで、とにかくクマ鈴を付けておくということで、ターミナル内でもどこでもクマ鈴を鳴らしている。過信して事故につながらないことを願う。パトロール中に何度も室堂近辺でクマが目撃されている。そんな中で、パトロール中に何度も弁当ゴミを回収した。悪質なケースでは、ハイマツやベンチの下に隠すように投棄されていた。

私はグリーンパトロールの仕事が好きである。この仕事に参加できる喜びをかみしめている。とても価値がある。高山植物の保護につながることはもちろんであるし、ライチョウの保護、登山者や観光客の安全、景観の保全、他にもあげればキリがないかと思う。この活動が長く続くことを願ってやまない。

- 今回も昨年と同様、7名体制でのスタートとなりました。一年ぶりの室堂ですが、今シーズンは天気が安定せず、悪天候でのパトロール待機が多く発生。また、下界の猛暑とは正反対の肌寒さが続きました。悪天候ゆえに、「グリーンロープ張り」、「劣化看板の交換補修」、「雪溪切り」といった作業が思い通りに進まず、8月までズレ込んでしまいました。

今回のパトロールで目立ったのが、外国人観光客によるルール無視。残雪を触りに行く目的で、グリーンロープをまたぎ、数十メートル先まで踏み込む行為や、室堂山展望台では、外国人登山者が緑地帯の踏み跡を岩陰までたどり、他の登山者から見えない場所でドローンを飛ばす（無許可）といった、常識を疑うような行為が見られました。言い方を変えれば、立山室堂にはそれだけ外国人観光客を魅了する素晴らしい風景、自然が残されているわけですが、これから先、さらに増加するであろう外国からの旅行者に対し、現場でのグリーンパトロールによる防止対応のみでなく、アプローチとして、交通機関内での環境保全のルール周知や、室堂到着時のレクチャー対応も必要では？といった印象も抱きました。また、今回は特異な事例として、捕虫網を振り回している男性（親子連れの父親）も見かけました。この男性に対しては、丁寧に話しかけ、自然保護センターまで一緒願い、センター職員と共に説得、対応しました。

パトロール以外では、宿泊場所である立山センターでの生活も例年通り、充実した日々を送れま

した。毎日美味しい食事を提供してくれるKさんや食堂に従事される方々には感謝しかありません。また、恒例の卓球も警備隊や救急隊の方々と毎晩楽しませていただきました。コロナ感染等の影響で、ご一緒できたメンバーのうち3名の方が途中下山になってしまったのが、今回のパトロール業務の中での一番の心残りです。私個人の感想としては、リーダーを中心に、メンバー全員が積極的なすべき仕事を協力して進めてくれて、チームワークは素晴らしかったと断言できます。室堂班でのパトロールは3年連続に従事させてもらいましたが、可能であれば来年も応募致したいと考えております。

- はじめに、高山植物等保護パトロールを30日間、病気、怪我等なく無事に終わられたことをとてもうれしく思う。しかし、3人がcovid-19感染症に感染または、感染疑いにより途中離脱し、7名から4名の活動になったことは残念であった。

私は初めてのグリーンパトロールであり、初めての立山室堂でもあった。また、日本で最後のトロリーバスに乗車することができて大変よかった。ところで、今年の室堂平はクマの目撃が相次いだ。人気のきわめて多い室堂平に出てくるとは、大胆不敵なクマだ。そのようなクマに、「チリンチリン」、「カランカラン」とクマ鈴を鳴らしても意味はない。けれども、クマ鈴をスーパーアイテムだと勘違いして鳴らす方が多くいる。室堂ターミナルにこのような標語ポスターがあった。「クマより怖いうるさい鈴を鳴らし続ける 無知と無自覚」本当にそのとおりだと思う。クマについて知り、正しくクマを恐れることが大切だ。

最後に室堂班でのご指南をいただいたF森林官、K・Aさんを筆頭とした立山センターの従業員、富山森林管理署、国有林野保護管理協議会、卓球で対戦した警備隊や救急隊、診療所、また活動を共にした6名の方々には大変お世話になり、感謝申し上げます。ありがとうございます！

- 目が覚めてドアを開けると、夢のように美しい光景が広がっていた。ここは標高2,400メートル、地獄と浄土があるとされる立山。

採用の連絡を受けてから、この仕事に就けることを心待ちにしていた。胸に好奇心と情熱を滾らせて。我々グリーンパトロールの仕事は、可憐な高山植物が風に揺れ、ライチョウやそのヒナがのんびり歩く立山の美しい景色を守ることだ。そのためには、登山客の配慮や協力が必要不可欠。ロープ内への立入やストックキャップの未装着、植物の採集といった注意すべき行為や、希少な高山植物への影響について登山客に理解してもらうことが大事だった。悪意を持って問題行為をする人はほとんどいない。みんなただ知らないだけなので、対話を試みれば理解してもらえる。むしろ感謝されることすらあった。赤いキャップ、トング、ゴミ袋を持ってコースを歩くことで“グリーンパトロール”を認知してもらい、登山客の自然保護の意識を高めることができた実感している。他にも、登山客の安全を守るための雪渓切りや、保護区域への立入を制限するためのグリーンロープの張り直し、壊れかかった看板の補修、ゴミ拾いや忘れ物の回収など、どれもが立山の美しさを守ることに繋がると感じ、意義のある仕事だと感じた。課題は、昨今増えている外国人観光客へ自然保護活動について知らせる方法だ。看板に英語の表記を増やしたり、室堂までのバスやケーブルカーの車内アナウンスや看板で英語の説明を加えることなどが有効かもしれない。毎日素晴らしい景色の中をパトロールするのはとても気持ちよく、登山客に感謝されることも嬉しく、充実した日々だった。山々に

落ちる夕陽の美しさ、濃霧の白く幻想的な景色、高山植物のかわいらしさ、山にかかる雲が晴れたときの爽快さ、ライチョウ親子のやさしさ、植物に雪がきらめく瞬間、雨の日も風の日も濃霧の日も、どんな天気でも立山は常に美しかった。どれも大切な宝物のような、濃密な時間だった。他のメンバーもみな山を愛する素敵な人ばかりで、経験豊富で頼り甲斐があり、話を聞くのもとても楽しかった。疲れた身体はお風呂で癒され、Kさんによる毎日のごはんも楽しみのひとつだった。

しかし、その時間は突然終わりを迎えた。コロナ罹患によって。立山に来てからわずか10日しか経っていなかったのに、下山が決まった時には申し訳ない気持ちと悔しさと涙が溢れてきた。私を含め3名が途中で下山することになり、残りの4名に立山室堂を守る仕事のすべてを託して日常へ戻った。最後まで完走した4名には本当に感謝しかない。少ない人数で、太陽に焦がされながらよく頑張ってくれた。本当にありがとうございました。森林管理署の皆様、立山センターで働く方々、診療所の先生方、山岳警備隊員や救助隊員の方々、保護センターの方々、山小屋の方々、多くの人の協力と日々の積み重ねで立山の美しさは守られているのだと感じた。後世にもこの景色がずっと、ずっと、ずっと、続いてほしい。まだ満点の星空の立山を見ていないし、見たことのない高山植物や野生動物もいる。最も高い場所の温泉にも入っていないし、立山の地獄や浄土をもっと知りたい。まだ、やり残したことがある。だから、またきつとここへ。爽やかな風が吹き抜け、可憐な高山植物が揺れるこの立山へ。

- こんなに幸せな仕事をさせてもらえて、本当に有難いと思う毎日でした。足元にはたくさんの高山植物、顔を上げればカッコいい立山連峰、愛してやまない自然に囲まれて過ごせるだけでも幸せなのに、その自然を守る活動が出来る喜び、さらには観光や登山の方々から「ご苦労様」「ありがとう」とたくさん声をかけていただき、夢のように幸せな日々でした。仕事面では思いのほかゴミも少なく、悪質な注意案件もあまりなく、総じてマナーが良い方が多い印象でしたが、大雨での待機中に過去の報告書を読む中で、事務所にある一番古いもの（1995年）にはグリーンロープ内でお弁当を広げたり、記念撮影をしたりと一日中注意ばかりしていて疲れてしまったとの報告や室堂の観光客のマナーのひどさを伝える新聞記事があり、そんな時代もあったのかと驚きました。この約30年でここまで人々のマナーが向上した背景には、長年コツコツとこの活動を継続してこられた関係者の皆さんの努力があり、感謝するとともに、続けていくことの大切さがよくわかりました。自分一人ができることは小さいと感じてしまうこともありますが、赤シャツに赤キャップ、腕章をつけたパトロール員がそこに存在するだけでも抑止や教育になり、この活動の意義と有効性について、身をもって体験させていただくことができました。今後も高山植物等保護パトロールの活動が続くこと、この美しい自然が後世に残されていくことを願ってやみません。

最後に、お世話になった関係者の皆さん、本当にありがとうございました。活動を共にした室堂班の、楽しく素晴らしきメンバーたち、みなさんの心遣い、たくましさ、優しさ、適応力など人として学ぶことが多く、一緒に活動できて幸せでした。本当にありがとう！いつかまた、どこかの山でお会いしましょう！

- まずは、山の上での生活、北アルプス未経験という自分自身を今回パトロール隊員として採用していただきありがとうございました。初めて、日常とは大きく異なる環境に身を置く山での生活を

体験するうえでは、本当に恵まれた環境であったと一か月を通し、毎日その有難みを実感していました。一方で、その環境だけでは、この期間を充実したものにはできなかったとも考えています。グループのメンバーにグリーンパトロールの経験者がいたこと、数か月山小屋で勤務経験のある方がいたことなど、過去の貴重な経験談を聞かせていただけたことは、圧倒的に経験値が足りない自分にとって、背中を押してもらえた要因になったのだと思います。

パトロールについてです。応募させていただいた理由のひとつに、登山や山での作業をするうえでの体力という点については自信がありました。ただ、今回パトロールをこなしていくうえで、ある程度の体力は必要な一方で、視野の広さや注視する対象へのバランスが大切なことを学びました。ゴミや拾得物に対するアンテナはもちろん、観光客のマナーや登山者の装備などの様子、人に向ける面、登山道や設備状況など環境に対して、改善策や疑問を持つこと、ライチョウや高山植物など動植物が日々変化していくことを細かく感じられること、そして天候の変化など、日々そのバランスを模索しながら自分の理想的な在り方を追求していました。結果として、その完成形にはたどり着けなかったのですが、山と人との繋がりをという自分自身が大切にしたい軸を考えながら、出会った方やそのシーン毎に声掛けやコミュニケーションを取ることができるようになったと実感できたことは、最大の収穫であると思います。山の背景や今までは素通りしていた足元の発見など、山に対する興味の対象が増えたことも今後の楽しみです。

最後に、今回7名でスタートした室堂班のグリーンパトロールでしたが、3名が途中で離脱となりました。個人としては、今回グループのリーダーを務めさせていただいた中で、経験者と未経験者という面以外で、それぞれのメンバーの良さを感じさせていただき、良いバランスで協力的に、皆が協調性を持ち活動をし始め、期間内一体感を持って最後まで向かっていける実感や自信があっただけに、残念な思いもありましたが、解団式まで4人で踏みとどまり活動を終えることができたのも、下山した3名が体調の異変を速やかに共有してくださった残りのメンバーに配慮してくれたお陰でもあると思っています。今回の活動で出会った全ての方々、取り巻く環境に感謝します。

- 「大好きな北アルプスに恩返ししたい！」そんな動機から応募したグリーンパトロール。高山植物の保護活動はとても大事ですが、私のグリーンパトロール活動には予想外の体験が待っていました。2日目に悪天候で待機になった際、保護センターで読んだレイチェル・カーソンの散文的エッセイ「センス・オブ・ワンダー」との出会いです。この本を読んだ後、「知る」前に子供のように「神秘さや不思議さに目を見はる感性」を再び取り戻す事が私にとってもう一つのテーマになりました。谷風に乗って、少数の編隊で曲芸飛行をするイワツバメ、キノコのような不思議なツボミのギリウソウ、雪渓をつがいで渡るライチョウのカップルとそれを暖かく見守るご夫婦の登山者、保護センターに迷い込んで困った様子のイワヒバリ、黒いツボミから想像つかない美しい花を咲かせるクロトウヒレン、ふと空を見上げると、獲物を求めて複雑に旋回するチョウゲンボウ、そして室堂平で見つかったキツネの死骸には、ライチョウたちに起きるかもしれない悲劇を想像してしまい、胸が痛みました。

私のグリーンパトロールとしての期間は、残念ながら体調不良の為、途中離脱となってしまいましたが、機会があればまた挑戦したいと思います。数々の貴重な体験をさせていただいた、立山と国有林野保護管理協議会の皆様に改めて感謝いたします。

【薬師岳・雲ノ平地区】

結果報告の要約

- ・注意件数内容で大きく占めていたのは、ストックキャップ未装着で44%、ロープ内立入と排泄ゴミがそれぞれ28%
- ・ライチョウの目撃数は、昨年より少なくなった
- ・一部ササが広がっており、高山植物の減少が心配
- ・看板や標識とそのメンテナンスに、登山者は関心を持っていた

活動期間：令和6年7月18日 ～ 令和6年8月9日

区域

五色ヶ原 ～ 薬師岳 ～ 太郎平 ～ 雲ノ平 ～ 三俣蓮華岳 ～ 野口五郎岳



標識の補修



危険箇所の標示

口頭注意件数

行為別	高山植物 採取	ロープ内 立入り	指定地外 キャンプ	ストックキャ ップ未装着	排泄の ゴミ	その他	計
件数	0	11	0	17	11	0	39
人数	0	13	0	19	11	0	43

令和5年度 件数	0	2	1	66	40	3	112
-------------	---	---	---	----	----	---	-----

ライチョウ目撃数（羽）

	オス	メス	ヒナ	計
令和6年度	3	6	7	16
令和5年度	3	8	22	33

パトロール員からのコメント

● 巡視上感じたこと

- 看板や山頂標識の文字を上書きしていると、「どれくらいの頻度で直されているんですか?」、「どの役所ですか?」、「読めるようにしてくれてありがとう」、「こういった看板も補修されてるんですね」といった声をいただく機会が多かった。看板や標識のメンテナンスの大切さと登山者の皆さんの関心の高さを感じた。
- 今年はなかなかストックのゴムキャップが落ちておらず、「使ってください」と渡せたのは僅か2件のみだった。山小屋に協力してもらい、主要メーカー（L社、S社、B社、E社など）のキャップを小屋の売店に置いてもらったらどうか。高山植物や登山道を守りながら小屋も売り上げが上がるので、お互いにメリットはあるのではないかな。また、登山者の目線からしても、パトロール員に注意を受けると真面目な人ほどストックを使うのをやめようとしてくれるが、山荘で購入できればその山行中から安心してストックを再び使えるし、小屋で付けることができれば、その山行中ストックを突く度に登山道に穴が開けられなくなるメリットもある。
- 上ノ岳偽ピーク手前（太郎山方面の池塘のある場所）～上ノ岳山頂間（ハクサンイチゲ群落周辺）について、以前に比べて笹が多くなっているように感じた。笹が増えれば高山植物は減少してしまう、高山独自の景観も失われてしまう。弥陀ヶ原はラムサール条約湿地であり注意が払われているが、薬師方面ではそういった調査や変化の観察はされていないのではないかな。現場は弥陀ヶ原と似たような標高、環境であるので気候変動、温暖化により弥陀ヶ原と同様な変化が起きていると考えられる。乾燥化が進み、池塘も減ってしまうことが懸念される。
- 五色ヶ原山荘の水源側（鳶山側）の笹が一部広めに刈ってあったが、これについて聞いてみると、やはり笹が繁茂してきて高山植物が減ってしまっているためとのことだった。このところ猛暑が続いているが、高山の環境変化は笹の繁茂がサインなのかもしれない。
- 手引きに、登山道状況写真や看板の撮り方を入れて欲しい。どんな角度、どんな向きで、何をどんなふうに入れるとわかりやすく、後で資料として使いやすい写真になるのか、具体的な例を示してほしい。
- 浄水器とバーナー・コップ類について、山小屋でも食品衛生向上のため、関係機関からHACCPの導入について話をされているようで、これまで普通に飲んでた水も、「沢水ですので浄水器でろ過するか、煮沸消毒してお飲みください」などと表記されるようになった（太郎平キャンプ場、五色ヶ原のテント場など）。今後はパトロール員もこういった浄水器や煮沸用具を持つことが、必要になるかもしれない（相棒のNさんは浄水器を持参し使用していた）。募集要項や手引きには、「気になる方は持参するように」と現状に即した表示をした方が良いのではないかな。
- 外国人向けに、日本の山のマナー（ルール）やグレードを明示する（ストックキャップの使用やゴ

ミの持ち帰り、キャンプは指定地のみ可能であること、15時までには目的地に着くように計画することなど）、あわせて日本の山独特の厳しさ（標高は高くなくともルートによっては急峻で岩場、ガレ場、道迷いしやすい場所、アップダウンが多い、雷を伴った夕立、天気が荒れると雨だけでなく強風吹くなど）を最低限英語表記（可能なら和英独仏中韓など複数）で書いた看板を登山口や太郎平のような要衝に掲げる必要があるのではないか。今年、パトロール員の入山初日に発生したシンガポール人6人組の救助ヘリ騒動のように、「お金ならあるからヘリを呼んで下山したい」というのは現時点ではできない事も周知しておく必要がある。現状では民間のヘリ会社もそういったサービスは行っていないと思うので、海外とは異なる事を理解していただき、体力と技術に合った山を選び入山してもらう必要があると思う。

- どの管轄かはわからないが、登山道沿いの休憩場所に設置されているベンチ（折立登山口～太郎平、太郎平～薬師沢、薬師平、雲ノ平）が場所によっては、メンテナンスされずにボロボロで木片が落ちるほどになっており、表面はささくれが目立ち安心して利用できない。自分は休憩時に座った際に、ささくれがお尻に刺さった。木道同様、そろそろベンチを更新するか、劣化の少ないものは表面にサンダーをかけて均すことが必要ではないか（これは立山室堂も同じ状況にある。例えば、エンマ台周辺のベンチは表面がささくれている。今年6月上旬にライチョウの撮影に来たときは、座った際にレインウェアを貫通してささくれた木が尻に刺さった。観光客も多い場所であるので安心して使えない危険なベンチは早急にメンテナンスするか更新すべきだと思う。）。
- 太郎平小屋と薬師沢小屋の間の木道がかなり破損していました。一般的に木道を歩くときは安心して気が緩むので、今回の登山道の中でも危険度が高いと感じました。6月に木道で骨折者が出たそうです。予算や人手等の問題があり、一度にすべてを直すのは難しいと思いますが、なにか対策が必要ではないかと感じました。
- 登山道外に踏み出す人は、立入禁止と知らずに踏み出してしまう人がほとんどだと思います。例えば、私の住む九州は標高が低く、ほとんどの山は草が生い茂っています。「植物は踏んでもすぐ生えてくる」との先入観があります。普段は低山しか登っていない人は、悪気無く高山植物を踏んでしまう人も多いのではないかと感じました。地道な啓発が必要と感じました。

● 改善を要すると思ったこと

- 風雪で削られた看板に対し、出発前に許可を得てかまぼこ板に#120と#320の耐水ペーパーを両面テープで張り付けた物で看板表面を削ってみた。凸凹が均されて文字が書きやすくなった（雲ノ平日本庭園など）ことと、元々何を書いてあったかわからないほどの看板でも文字が浮き出てきて何を書いてあるのか判った事例（間山池、スゴの頭）もあった。一定の効果は認められたので来年以降他班でも導入すると良いと思う。今回、使用してみて作業時間を短くできる目の粗い#120を多用したので、可能なら来年は#120と#80で試してみたい。このサンディングブロックは、登山道沿いの休憩場所にある木製のささくれが目立つベンチに対しても使えると思う。許可を得られ、時間が許せば来年はこちらも手を入れられると思う。
- 太郎平小屋にデポしてある太いグリーンロープ支柱はバナナのように曲がっており使用不能なので新型の細い支柱を上げて欲しい。太い支柱を降ろすのは大変だが、森林管理署だけで仕事を抱えてしまい「できません」というのではなく、ボランティアの力自慢に1人1本ずつでも降ろしてもらえば何年か経てば全て降ろせるのではないか。折立登山口に仮の置き場を設けておき、そこに置いて

いただくようにしてはどうか。ボランティアといえども、ジュース1本分くらいのご褒美が折立登山口でもらえたら協力を考えてくれる人もいるかもしれない。また、体調不良による途中リタイアも考えられるので、太郎平小屋～折立登山口の間地点や三角点に途中リタイア用仮置き場を作っておいてはどうか。変な場所に置かれるのを防げると思う。

- グリーンロープ末端がほつれて、使用できる長さが短くなっているのを何度も見かけた。グリーンロープを少しでも長い期間使うため、ビニールテープをグリーンロープ末端に巻き、更にライターであぶって溶かしてほつれ防止してはどうか。ビニールテープであれば、ホームセンターでも1巻60円程度でき、購入でき持ち運びもさほど苦にはならないので、来年から支給してもいいのではないかな。
- 地図に看板等の位置を書き込みましたが、来年する人に引き継ぐことはできないでしょうか。以前に書き込まれた地図があれば、その日のルートで看板の場所・数を事前にチェックできるし、書き込み作業も楽になるのではないかと思います。
- 折立登山口から始まる場合、初日のスタートをもう1～2時間早められないか。事務所の朝食時間や有峰林道の通行開始時刻、登山口まで送って下さる森林管理署職員の方が上がってくる時間などの制約があるため、現在のタイムスケジュールとなっていると思う。しかし、パトロール員にとっては初日というのは荷物が最も重く、ペアと初めて歩くこと、お互いに登山スキル、体力、歩きを確認しながら、パトロール員としての仕事がどれくらいできるか確認しながら（時には教えながら）歩くことになり、どうしても時間が余計にかかってしまう。今年は初めの樹林帯が蒸し熱く、なかなかペースを上げられなかったうえ、その後もパトロール員として見るべきポイントを伝えたり、高山植物を教えたり、看板の上書きをしているうちに思ったよりも時間がかかってしまった。結果的に、やや遅れて15時20分頃に太郎平小屋に到着した。もし、15時までに何としても到着、ということならば看板上書きや教育に割く時間を削って歩くことになるが、その場合、看板については翌日以降に戻って上書きすることになる。パトロール期間が短縮された現状では同じ方向に戻る余裕はなく、諦める必要が出てくると思う。
- 日焼けに強い隊員は現在のTシャツとロングのもので良いと思うが、自分のように日焼けに弱い場合現行のユニフォームに首が無いのが気になる。現状のシャツとの差額を払っても良いので、首回りの日焼けをしないようM社製の安いジップネックを選べたらいいと思う（人によって長袖、半袖なども）。赤系なら自分の物を使用しても良いことになっているものの、ユニフォームを持たずに行くのも気がひけるので（特に移動日に小屋に入っの挨拶の際）、今年もTシャツは持って行った。ジップネックにきちんと、「国有林野保護管理協議会 高山植物等保護パトロール」の文字が入っていれば、Tシャツ分1着荷物を減らせる。
- 「歩道外立ち入り禁止」、「指定地外キャンプ禁止」の看板が古くて壊れたまま、10年経っても変えてもらえないが何とかありませんかと聞かれることがありました。毎年パトロール員が巡視し、森林管理署に情報を上げているが、森林管理署が動いてくれて良くなったと実感できることが無いのはどうなのか。10年以上前の「峰々歩きて」を読むと最近のパトロール員と同じことを問題提起していたりするが、改善・進歩していないということではないのか。せっかくパトロールをやっているんだから、パトロールを夏のイベントで終わらせるのではなくて実りあるものにしてほしいとのことです。

● パトロールを終えての感想

- 無事に終わることができたこと、それが何よりうれしいと感じたシーズンとなった。ここ数年、体調不良、捻挫、風邪と毎年何か問題を起してしまうばかりだったので、今年こそは何もなく終えたいと思っていた。7月は天気が悪く、雨風強い日があり移動するか判断に迷うこともあったが、地形を考慮したり、行動時間・ルートを工夫して乗り切る事ができた。せっかく高天原山荘まで行ったのに、天気が悪すぎて温泉に行くことなく翌日の移動となってしまったのは残念だった。8月に入ると天気は一転し、晴れの日が多かったものの猛暑のためか移動日のザックを背負って無風の場所を通過するときは平地のような暑さに苦労した。水が豊富なイメージのある五色ヶ原山荘では例年流れているはずの雪溪から水が出ておらず、水不足とのことで水汲みが必要になっていたのにはとても驚いた。

事務局で言われた通りゴミ拾い、啓発活動、看板上書き、グリーンロープ張り、登山道状況の確認と撮影などが主な活動となったが、来年以降は山小屋さんの希望される外来植物除去にも手を入れられたらいいと思う。この辺りは、山小屋さんと事務局である森林管理署さんとの話し合いの場で活動内容のすり合わせをして欲しい。事務局からの意見としては外来植物に関する講習の時間が取れないという事だが、考えようによっては高山植物を学ぶよりも平地で見慣れていて、なおかつ繁茂すると高山植物に悪影響が出やすい外来植物・低地の移入種を例えば5種類に限って学習し、取り方を学ぶという方が短時間で効率的なのではないだろうか。除去や判別は別の講習会の実地での様子を撮影したビデオを流すというやり方ならわかりやすく、事前学習も再学習も可能になるかもしれない。多くの方に支えられている活動だからこそ期待を超えて期待に応えたいと思ってほとんどのパトロール員は参加している。今までと同じではなく、毎年僅かであってもより良い成果の出せるGパトの形を模索して一步一步レベルを上げていくことが必要な時期に来ているのではないか。来年に期待したい。

- 一番印象に残ったのは、三俣山荘さんの登山道同整備ボランティアさんたちが作られた登山道です。登山道は雨が降ると、水が集まり川になって道を削り、いずれ崩壊してしまうそうです。そのために、登山道の要所に、流れる砂を逃がす「水切り」を作られていました。私は、実家のある地域の標高323mの低山で登山道整備のボランティア団体に所属していますが、登山道の流出は強く感じていました。「水切り」を参考にして取り入れたいと思いました。しかし、登山道を整備しても、定期的なメンテナンスが必要です。自治体などの予算が少なくボランティア頼みになってしまうところは、国立公園でも九州地方の田舎の低山でも似ていると思いました。私たちの団体も、軽トラ、草刈り機、チェーンソーなどの機械を持っているメンバーはほとんどが70歳以上。その下の世代は、地元に残る人も少なく、残っても農林業を継いでいない人が多数です。今後が心配ですが、日本アルプスに負けずに、登山道整備を続けていきたいと思います。

初めての稜線班で、21日間続けて山中で過ごしたのも初めての経験でした。山小屋生活の環境に早く慣れ、心身のリソースをより多く巡視に割くのが重要になると思いました。グリーンパトロールのおかげで、九州に帰っての登山でも、登山道や、植物を見る視点が変わりました。この経験を活かして、登山道整備や環境保護に少しずつでも貢献し続けていきたいと思います。森林管理署の皆様、山小屋や関係機関の方、そして、パートナーの方には、大変お世話になりました。ありがとうございました。

【黒部地区】

結果報告の要約

- ・注意件数内容で大きく占めたのは、ストックキャップ未装着で57%、排泄ゴミが38%
- ・ライチョウ目撃数は昨年より少なくなり、サルをよく見かけた
- ・ストックキャップは登山中取れてしまった人が多く、基本的には登山者の高山植物の保護意識が高く感じられた
- ・ロープ内立入りする登山者は少なかったが、ロープがない場所では登山道外へ出てしまうことがあった
- ・今年は秋の高山植物が7月に開花するなど、気候に違和感を覚えた

活動期間：令和6年7月18日 ～ 令和6年8月9日

区域

針ノ木岳 ～ 爺ヶ岳 ～ 五竜岳 ～ 唐松岳 ～ 白馬岳



美化活動



置き石による植生保護

口頭注意件数

行為別	高山植物 採取	ロープ内 立入り	指定地外 キャンプ	ストックキャ ップ未装着	排泄の ゴミ	その他	計
件数	1	3	1	66	44	1	116
人数	1	4	7	100	49	4	165

※指定地外キャンプ：寒さによりビバークしていた

※その他：ザックがグリーンロープを越えた場所にデポされていた

令和5年度 件数	0	2	0	31	24	3	60
-------------	---	---	---	----	----	---	----

ライチョウ目撃数（羽）

	オス	メス	ヒナ	計
令和6年度	3	2	5	10
令和5年度	4	8	13	25

パトロール員からのコメント

● 巡視上感じたこと

- 小屋が開いて大体2週間くらいにパトロールが始まったせいか、昨年よりゴミが少ないように感じた。
- 昨年よりライチョウをあまり見られなかった。今年はサルをよく見た。
- ストックのゴムキャップの口頭注意では、登山中に取れてしまったという方が多く、高山植物保護に協力する姿勢が感じられた。B製のストックは先端がゴム製らしく、一応ゴムキャップは付属品として付いてくるらしいが、装着していない人が多く、あいまいな境界だなあと思った。
- グリーンロープが張られている区域から中に入る人は少なかったが、ロープがなくなると登山道を外れて入ってしまう人がいたので、そこをどう対応すればいいのか。口頭では注意するが、パトロール員がいなくても入らせないようにしたい。

● 改善を要すると思ったこと

- 結団式が午前9時30分開始のため前泊を要します。給料の少ない中、物価高騰の中に来ています。できれば前泊代を浮かせたいため、前日無料で泊まれる施設、又は午後からの結団式などに対策をとって欲しい。去年より日当を100円値上げしていただいたのはありがたいですが、前泊のホテル代にもなりません。お金が必要な若者、山を大切にしたい若者の募集が減ってしまうと思います。
- あらかた看板の位置が分かっているのであれば、支給される地図に最初から位置を記してもらっても良いのではないかな。その看板の状態は撮影するという形で。去年もほぼ壊れかけている看板があったが、新しいものになるにはどのくらい時間がかかるのか。コマクサの看板について、ほぼ崩壊しているため修正するのももういらないのか。もう10年ほど変わらない。
- 今回のルートは往復だったため、行きに作業をすると帰りはゴミ拾いぐらいしか作業がなく、山小屋の手伝いもできることが少なく、時間が余ることが多かった。
- 外来植物について見分け方が載った冊子があると良い。特に小さいうちのものを高山植物と見分けられると良い。
- 看板の文字を塗り直す際に、ペンだと凹凸に対応できなかったため、塗料や筆系のものにしてもよい。

● パトロールを終えての感想

- 今回2年連続で黒部班を担当させていただきました。パトロール期間が去年とは2週間ほど早くずれたため、針ノ木雪渓を歩く、天狗山荘周辺の雪渓切りなど、去年体験できなかった事があり、良

い経験になりました。台風の時季より早めのパトロールのため、天候が安定すると思いましたが、前半は雨、風が強い中の移動で苦労しました。しかし、往復のパトロールルートのため、行きにできなかった看板の上書きなどができました（往復のルートのメリット）。幾つかの小屋番さんからは変な天気、風が西から吹く、寒い、秋の高山植物が7月に開花しているなど聞き、1ヶ月早回しの季節が来ているような、僕自身も気候には違和感があったパトロールになりました。2年連続ということもあり、昨年の登山道と比較しながら今年のパトロールができました。1年という短い期間と思っていたが、侵食、植物の拡散力、道の後退の早さ、山に入る身として勉強になりました。3、4年、10年どうなっていくのだろうと単純に興味があります。

また機会があれば参加させてください。よろしくお願いいたします。

- いつも景色ばかりに目が奪われていて足元に咲いている植物に気付かないことが多かった。このパトロールを経験して高山植物がいかに厳しい環境の中で芽生えているのかを知った。また、植物が山には欠かせないということが分かった。山の斜面や池の周囲など土を固めるために植物の根がそれを支えていたり、木の根を登山道に利用したりと風や岩石の風化によって少しずつ崩れていく山を植物は支えており、またそこで生きる多様な生き物らの栄養になっていた。今の景観を後世に残すためにも、これからは意識していきたいと思った。

このパトロールを実施してくださった林野庁各位、そして支えてくださった山小屋関係者様、貴重な体験をさせていただき大変ありがとうございました。



ミヤママンネングサ



八峰キレット

【白馬・朝日・北又地区】

結果報告の要約

- ・注意件数内容で大きく占めていたのは、ストックキャップ未装着で85%、ロープ内立入りが14%
- ・ライチョウ目撃数は昨年度並み
- ・ロープ内立入りは、白馬岳で日の出を見るための登山者が目立った
- ・ゴミは意図的なものではなく、細々とした物が多かった
- ・登山者の高齢化を感じた

活動期間：令和6年7月18日 ～ 令和6年8月9日

区域

朝日岳 ～ 雪倉岳 ～ 白馬岳周辺



グリーンロープの設置



標識の補修

口頭注意件数

行為別	高山植物 採取	ロープ内 立入り	指定地外 キャンプ	ストックキャ ップ未装着	排泄の ゴミ	その他	計
件数	0	9	0	56	0	1	66
人数	0	22	0	81	0	3	106

※その他：白馬大池で遊泳

令和5年度 件数	0	2	0	63	6	0	71
-------------	---	---	---	----	---	---	----

ライチョウ目撃数（羽）

	オス	メス	ヒナ	計
令和6年度	12	17	19	48
令和5年度	2	12	28	42

パトロール員からのコメント

● 巡視上感じたこと

- ゴミは意図的なものはなかった。量も想像以上に少なかった。ビンとピンクテープの破片、工具、クッキーや飴の袋片、タオル、手拭い、ペグの残置が目立った。例えば、タブレットやクッキーは1つのジップロックに開けて持って来る認識になって欲しい。風で飛ばされたり、岩の隙間に落ちるなどで、全てが回収できているわけではないと感じた。
- 登山者と接していて、わざと高山植物を傷つけるような意識はなく、むしろ保護しようとする意識があったと感じる。けれども、保護意識があったとしても、わざと落したり、ストックキャップを着けなかったり、ロープ内に立ち入ったりと、無意識に山の環境を悪くしていたと感じる。
- スtockキャップはほとんどの人が着けていた。キャップ未装着者に注意すると、キャップを装着しないことで、登山道や植生を害すると思っていた人が一定数いた。キャップによる登山道への影響について、情報発信が必要だと感じた。
- スtockキャップ未装着について、81人のうち、高山植物保護の観点上、理解してくれた方は60人弱で、残りの20人近くは外国の団体と着けないほうが良いと主張する方だった。外国の団体と添乗員には、日本の山の常識を知って欲しいと感じます。彼らの後ろを歩いていると、登山道は虫食い穴のように異様な穴だらけでした。Stockキャップを着けないほうが良いと主張する方には、トラブルを生まないよう、穏便に注意しました。相手の主張も間違っていないし、「キャップを落とす人がいるから道の自然を破壊する」とおっしゃっていました。しかし、外国の団体のStockの跡を見ると、キャップは必要だと感じました。もし、白馬岳に登る人全員がキャップを着けていなかったら、1日で700万個の穴ができるでしょう。また、落ちているキャップを発見した場合、拾う認識を持てば、ゴミはなくなると思います。結団式の時にそのような人と会った場合の対処法を教えて欲しかったです。
- ロープ内への立入について、白馬岳で日の出を見られる方が特に目立ちました。常習的に入っているだろうと見え、注意しても効かなかったです。また、ロープのない所で明らかに登山道から離れた場所で休憩される方にも注意しました。岩稜帯なら植物を傷つけないので自己責任ですが、しっかりイブキジャコウソウの上に荷物を置く人もいました。そこだけはやめて欲しかったです。
- 登山道とその周辺にはイネ科の草が多く生えていて、下から持ち込まれていると考えられ、白馬エリアの貴重な高山植物に影響を与えると感じた。

● 改善を要と思ったこと

- グリーンロープは時に景観を破壊するため、どの程度設置するかマニュアルが欲しいと感じた。
- 腕章のクリップが初日に取れた。取れないような腕章にするか、腕章そのものをなくすのが良いと

思った。

- 基本的に富山県側しかパトロールできないのは、もったいないと思った。長野県側のパトロールと協力体制をより強固なものにしたほうが良いと思った。

● パトロールを終えての感想

- 全体を通してまず、大きな怪我を負う事無く下山できて安心しました。パトロールの前半戦は梅雨真っ只中で、朝日一帯荒れていた印象が多かったです。そのため、時々顔を出す太陽はありがたく感じました。

さて、朝日と白馬をパトロールしていて気付く事は、なんといっても登山者の数が違う事です。朝日岳を70人踏む時は白馬岳を700人踏むのに匹敵しました。なので、朝日岳よりも白馬岳のほうがゴミの量が膨大でした。また、白馬岳を歩いているとたくさんの登山者と接する機会がありました。「ゴミ拾いありがとうございます」や「ご苦労様」など、嬉しく感じることもありました。

下山して、朝日班で良かったと思いました。朝日に来て新しく60種以上の高山植物を覚え、小屋と警備隊、遭対協、S医大、常駐隊の人と関われ、とても新鮮な日々でした。山を守るため、パトロール活動は無くしてはならないと感じます。この活動を通して、登山道の在り方や高山植物保護の観点、白馬岳と朝日岳の素晴らしさを学びました。富山森林管理署とH君にはお世話になりました。ありがとうございます。

- 本パトロールを通して、様々な人と出会い、貴重な経験をすることができたと思う。特に朝日班は、稜線班の中でも同じ小屋に滞在する時間が長く、小屋の方達と仲良くなれるのは朝日班の強みだと思った。

ちょうど高山植物が最も多く見られる時季で、主要な高山植物を見て、名前や特徴等の知識を付けることができたのも良かった。改めて北アルプスの自然の豊かさを実感した。また、一度通った路に咲いていた花も、次に通る時には枯れて他の花が咲いているなど、季節の移り変わりを感じられるのは、パトロールならではの感覚だと思った。

朝日小屋と白馬山荘は規模感や雰囲気が対照的で、2つの異なる小屋を行き来するのは大変刺激的だった。両方の小屋には小屋番、グリーンパトロール以外にも常駐隊、警備隊、案内人組合、医師など様々な人がおり、多くの方々の支えによって自然・登山文化が維持されているのだと強く感じた。

一方、登山文化には高齢化の問題があると感じた。すれ違う人の多くは40代以上であり、若い登山者が少ないように感じた。グリーンパトロールや小屋番、常駐隊など山の仕事が存在するのは登山をする人がおり、その価値を見出しているからである。高齢化で登山者の数が減れば、山の仕事は減り、結果登山文化の衰退や環境保全の後退を招く可能性がある。これを防ぐために若年層の登山文化の推進が必要だと考える。加えて外国人観光客の取り込みも必要になってくると思う。

こうした現状の中で、グリーンパトロールには、自然を保護するだけでなく、自然の美しさ、良さ、素晴らしさを伝える（インタープレットする）役割がより一層求められると思う。なぜなら、自然の価値を伝え、登山者数を維持することが、仕事や山小屋を維持し、自然環境を保全し続けることにつながるからだ。本パトロールが終わってからも、自然の価値を伝え続けられる人物でありたいと思

う。特に若者の一人として、若い人へ自然の良さを伝えていきたい。

最後に、本パトロールを行うにあたって、様々なご指導をいただいた富山森林管理署のみなさま、パトロール中お世話になった朝日小屋、白馬山荘の方々に深く御礼申し上げます。

また、約3週間苦楽を共にしたバディのHくん、本当にありがとう。同年代ということでもあって話も合い、おかげで楽しくパトロールの日々を過ごせました。また、どこかの山で。

4. 編集後記

7月18日の室堂班の結団式から始まった今年の高山植物等保護パトロールは、8月16日の解団式をもって全日程を終了しました。活動期間の前半は、悪天候に見舞われ作業や移動等に苦労されたと思います。後半は天候も回復し、無事にパトロールを終えられたことを、たいへん嬉しく思います。

今回の活動を通して出された貴重な意見・提案等は、反省点も踏まえ、来年度以降のパトロール活動に反映させて参ります。

最後に、高山植物等保護パトロールにご協力いただきました国有林野保護管理協議会関係者、山小屋等宿泊施設関係者並びに運輸事業者等の皆様に感謝を申し上げますと共に、今後ともご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

高山植物等保護パトロール事務局

富山森林管理署 森林ふれあい担当

